令和２年度　鳥取市教職員研修アンケート調査結果

アンケート調査の趣旨

令和３年２月１９日

鳥取市では、本市教育の最重要課題である不登校、問題行動等（未然防止）・学力向上に向け、特別支援教育の視点を基盤にした研修をしています。

鳥取市教育センターは「研修で学校が変わる」を合言葉に、中堅教諭等資質向上研修を核として複数のキャリアステージや職務とのコラボ研修を実施し、効果的に研修成果を学校運営に活かすマネジメントサイクルの確立を図っています。

本アンケート調査では、各学校における鳥取市教職員研修受講者が研修したことを校内で協働しながら実践に活かし、研修成果を還元している状況を把握するとともに、今後の研修企画の資料にすることを目的としています。

※アンケート期間　令和２年１２月１４日～令和３年１月１４日
※アンケート対象　鳥取市立小・中・義務教育学校（５６校）

考察と展望

（○：成果、▲：課題、◇：展望）

○学校運営参画意識が「高まった」と回答した割合が９パーセント上昇している。研修で学んだことを実践につなげようとする意識が高まっている。

○コロナ禍で校内研修等を実施し難い状況であったが、各校とも規模や時間などの工夫することで研修内容の伝達の場を設定し、情報共有を図っていることがうかがえる。

○授業改善への活用度において「高まった」と回答した割合が１０パーセント上昇している。研修内容を活かした取組が、各校で行われていることがわかる。

○一斉指導型の授業から、子どもたち同士で学び合う授業スタイルへと改善を図る学校が増えてきた。また、ＩＣＴを活用して授業を工夫する学校が増えてきた。

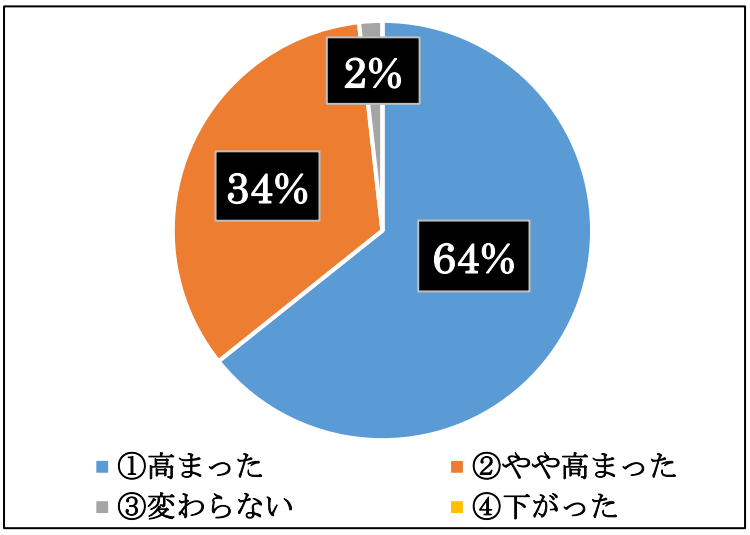
○研修内容をチーム等での話し合いを通して、自校の課題解決につながる具体策を出し、全校で実践する学校が増えつつある。

▲各校において、研修内容の伝達・報告が実践されているが、学校課題解決のために、さらに学校の中での実践意欲やミドルリーダー等の推進力に繋げることが課題である。

◇研修内容の共有化はもとより、「Ｍｙアイデアシート」等を活用して自校の課題解決につながる具体策を出し、マネジメントを通して学校力アップ、教職員力アップを図りたい。

◇学校力アップのための推進力強化にむけて、中堅教諭等資質向上研修に加えて、「教職員としての資質の向上に関する指標」の向上期のスタートである６年目研修の充実を図りたい。

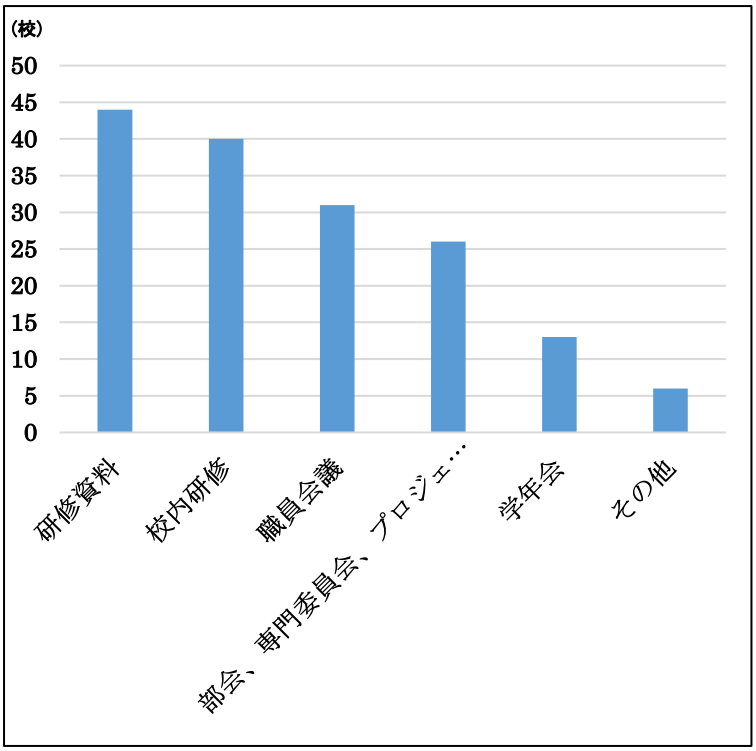
（１）　研修受講者の**学校運営参画意識の変化**



＜回答内容＞　　（昨年度）
① 高まった……６４％（５５％）
② やや高まった…３４％（４５％）
③ 変わらない……　２％（　０％）
④ 下がった……　０％（　０％）

＜考察＞
・昨年度に比べ、「高まった」と回答する学校の割合が増加した。学校課題解決に向け、全教職員が一丸となって取組につなげようとしている。

（２）　研修内容**伝達・報告の方法**



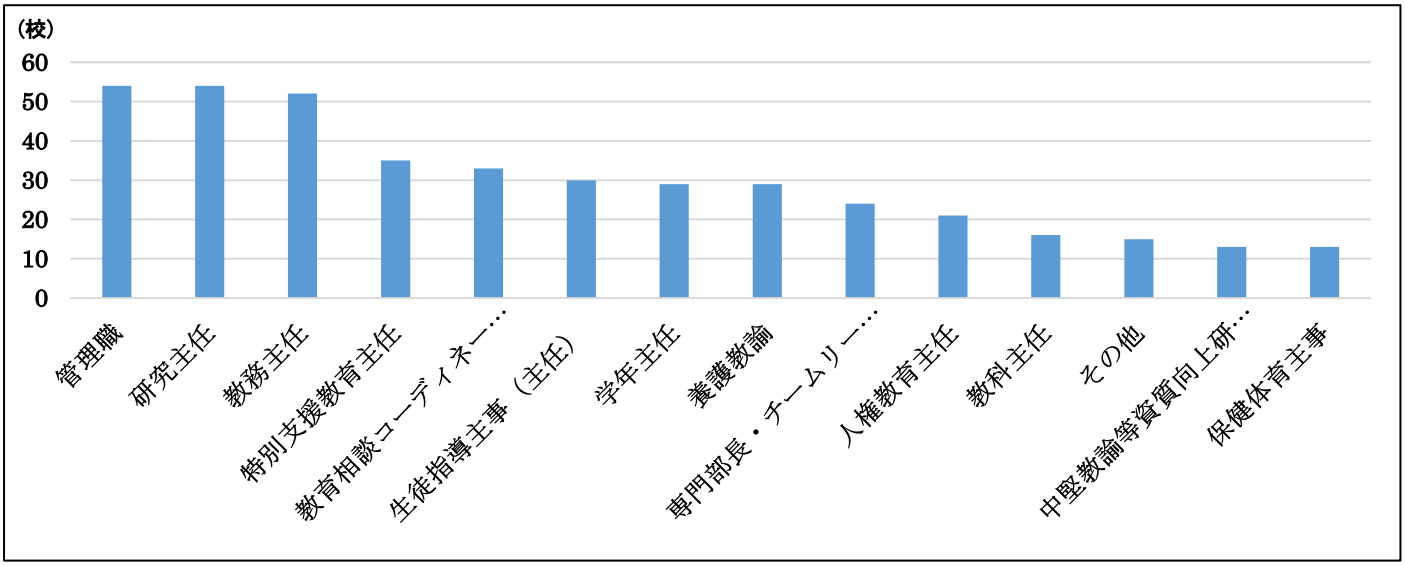
＜回答内容＞　※複数回答可　　（昨年度）
- 研修資料を回覧・共有…４４校（４８校）
- 校内研修で伝達・報告…４０校（４２校）
- 職員会議で伝達・報告…３１校（４４校）
- 部会、専門委員会、プロジェクトチーム等で伝達・報告……２６校（２８校）
- 学年会で伝達・報告……１３校（１１校）
- その他……　６校（　９校）

（記述欄）

「Ｃ４ｔｈを活用し、研修内容を共有した」「若手の先生を対象とした、自主的な研修会を実施した」等

＜考察＞
- 研修資料の回覧、職員会議や校内研修での伝達・報告をする学校が多い。
- コロナ禍において、報告の場を設定するために、少人数での会を開いて情報共有しようという工夫が見られる。

（３）　研修内容を学校課題解決に活かす**協働推進者**

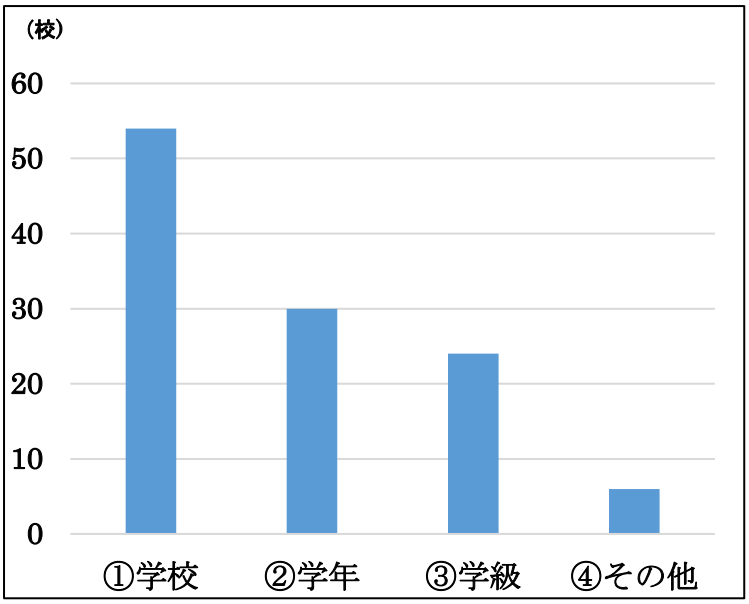


＜回答内容＞　※複数回答可　　（昨年度）
- 管理職……５４校（５３校）
- 研究主任……５４校（５１校）
- 教務主任……５２校（５０校）
- 特別支援教育主任……３５校（４２校）
- 教育相談コーディネーター…３３校（３０校）
- 生徒指導主事（主任）……３０校（３０校）
- 学年主任……２９校（２６校）

（昨年度）
- 養護教諭……２９校（２１校）
- 専門部長・チームリーダー……２４校（２２校）
- 人権教育主任……２１校（２０校）
- 教科主任……１６校（２２校）
- その他……１５校（１２校）
- 中堅教諭等資質向上研修対象者…１３校（１４校）
- 保健体育主事……１３校（　７校）

＜考察＞
- 管理職、研究主任、教務主任と連携した学校が多い。さらに、各主任、主事等をリーダーとし、委員会や少人数での会を設定して学校課題解決のための取組を連携して実践していることがうかがえる。

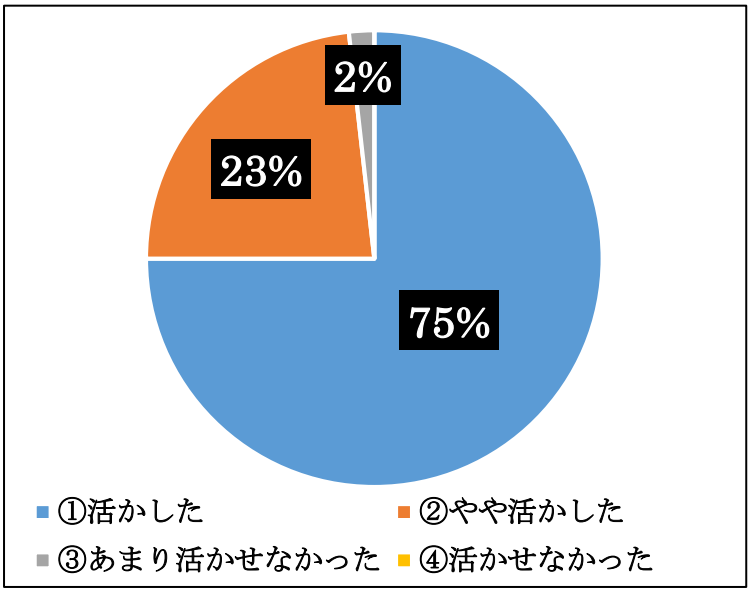
（４）　研修内容を学校課題解決に活かす**取組の実施単位**



＜回答内容＞　※複数回答可　（昨年度）
① 学校……５４校（５３校）
② 学年……３０校（２８校）
③ 学級……２４校（１９校）
④ その他……　６校（１１校）
（プロジェクトチーム、ブロック、教科会等）

＜考察＞
・ほぼ全ての学校が、研修内容を活かした取組を学校全体で行っている。また、研修内容によって、効果的に取り組める単位を選択して実践していることがうかがえる。

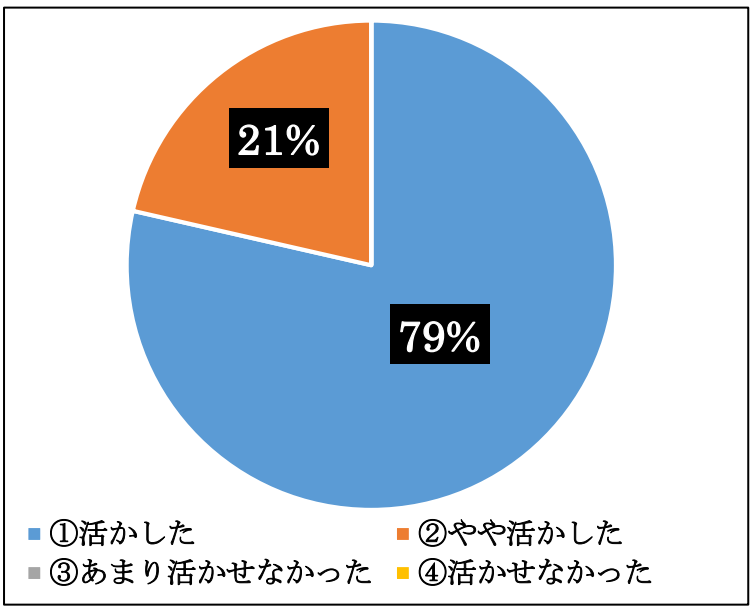
（５）　不登校、問題行動等（未然防止）の取組への活用度



＜回答内容＞　（昨年度）
① 活かした……７５％（７８％）
② やや活かした……２３％（１９％）
③ あまり活かせなかった…　２％（　３％）
④ 活かせなかった……　０％（　０％）

＜考察＞
・ほぼ全ての学校が、研修で得た学びを不登校、問題行動等（未然防止）の取組に活用している。
・スクリーニングシートの活用により、児童生徒の実態把握に努め、指導・支援に活かしたことがうかがえる。

（６）授業改善への活用度



＜回答内容＞　（昨年度）
① 活かした……７９％（６９％）
② やや活かした……２１％（３１％）
③ あまり活かせなかった…　０％（　０％）
④ 活かせなかった……　０％（　０％）

＜考察＞
・すべての学校が、各校での授業改善に向けて、研修内容を活かした取組を行っていることがわかる。
・教師主導の授業展開から、児童生徒が学び合う場面を取り入れた授業への転換意識がうかがえる。

（７） 研修内容を学校課題解決に活かす**取組の具体的内容**

①学校は、どのような取組を行いましたか。	②取組によってどのような効果がありましたか。
＜回答内容＞	
不登校、問題行動等（未然防止）	
・定期的に行っているスクリーニング会議を充実させ、時には小学校の情報も取り上げた話し合いを行った。必要に応じて小中合同の支援会議も開き共通理解の上それぞれが指導にあたった。	・個々の教師の児童の見取り方がより客観性を帯びるようになったことに加え、視点を意識した未然防止の学級経営に意識が向くようになった。
・アセスメントシートを学校体制で活用できるように、アセスメントシートの記入の仕方等について全体で共通理解を図った。	・学校全体において児童理解が進み、全職員で全児童に関わることができるようになってきた。そして、全職員が一貫した指導が行えるようになってきた。
・『ポジティブ行動支援』の研修内容について、要点をまとめて全職員に紹介し、本校で実施されている内容の再確認を行い、さらなるブラッシュアップを図った。	・気になる行動をとる児童が望ましい行動をとることが多くなった。また、周りの児童もその行動を支持するようになった。子ども同士の関わり合いの言葉や、やり取りが増え、クラスとしての繋がりが増えた。
・定期的にケース会議、校内不登校対策委員会を開催し、見取りや指導方針の検討に生かした。	・ケース会議を持つことで、担任の心理的不安を少なくした。また、具体的な支援が明らかになったため、学校体制として役割分担が明確となり、行動しやすくなった。
・アセスを実施し、職員研修で分析を行い全体で共有した。また、ＳＥＬ－８Ｓと関連付けて学級の課題に対する具体的な学習（支援）に取り組んだ。	・職員は、アセスのデータを分析して終わるのではなく、それを学級経営に活かす力が高まった。
学力向上、授業改善	
・児童の学習意欲、学力の向上、また授業者の指導力向上に向け、それぞれの研修で学んだ事項を事前研や模擬授業の中に取り入れ、活かしていくようにこころがけた。	・前後期に行った学習に対する児童アンケートの結果「授業がよく分かる」「授業中、私語をしないで先生や友達の発言を聞く」「家庭学習を必ずする」等の設問に対する肯定的評価が向上した。
・授業改善の視点において、教師の一斉指導型の学習から、グループでの学習を意図的に取り入れた。友達をまきこみながら取り組む学習を意識し、授業研究会等で互いの授業を見合い、研修する場をもった。	・授業に対する児童の意識に少しずつ変容が見られてきた。また、自分の考えを友達に伝えるなど学び方が身につきてきている。校内アンケート「算数における友達との学び合い」の項目において、肯定的評価が５％アップした。
・特別活動を中心として、全員参加の子どもが活躍できる授業づくりに努めた。特に、学級会の話し合いの仕方を学級で揃え、子どもたちが主体的に進める経験を重ねた。	・自分の意見に理由をつけて言う力がついてきた。また、友達の意見を聞いて合意形成をしたり、工夫を考えたりする力もついてきた。
・情報化に関する研修で学んだことを発信することで、ＩＣＴを授業でどのように利活用するかを考え、具体的な授業改善を図る努力をした。	・全職員がＧＩＧＡスクール構想について共有し、新しい生活様式の中での授業イメージを広げることができた。また、これまでは、一部の得意な人が情報担当として動いていたが、今後は全員が自分事として情報化に伴う変化に対応し、学び続けなければならないことを自覚し、積極的に取り組もうとする姿が増えてきた。

＜考察＞

○研修を重ねることで、一人一人の児童生徒の実態把握や児童生徒理解の方法が共通理解され、具体的な方策を全教職員で共有し、実践していることがうかがえる。

○一斉指導型の授業から、子どもたち同士で学び合う授業スタイルへと改善を図る学校が増えてきた。また、ＩＣＴを活用して授業を工夫する学校が増えてきた。

◇学力向上、不登校やいじめ、問題行動等の未然防止の基盤となる学級づくりをさらに充実させ、一人一人の教育的ニーズに対応した教育を基盤にして、「魅力」と「徹底」による学力向上、豊かなかかわりによる自己有用感の育成を見据えた研修を行う。

（８）研修を**校内マネジメント**にどのように活かしたか

＜回答内容＞
・研修内容をもとに本校の実態を見直し、関連する分掌やプロジェクトチーム等で実践につなげるよう検討した。
・研修内容が具体的活動につながるよう、研修会や職員会議での報告のみでなく提案も行うようにした。
・各プロジェクトチームで話し合う場で、共有したことをもとに学校としての方向性を決めた。
・研修内容と学校評価アンケートの結果を関連させながら、学校運営や教育活動の推進方向を決めた。
・研修で学んだことを若手教員に伝え、指導力の向上を図った。
・情報教育で突出したリーダーを育成し、職員への啓発を図った。
・研修内容を校内研修に組み入れることで、主任や担当者の学校運営への参画意識を高めた。
・研修内容について、プロジェクトチームで話し合って案を作り、学校全体で取り組んだ。
・協同学習を取り入れた授業改善をプロジェクトチームのマネジメントに位置付けた。
・スクリーニング資料を基に、定期的に会議を持ち、不登校の未然防止につなげた。
・学校の実態に合わせたスクリーニングシートの項目を見直した。
・ＱＵ調査からアセスによる調査へ転換した。
・ＧＩＧＡスクール構想への対応を図るために、ＩＣＴ活用を促す校内研修を実施した。
・研修後、本校に活かせそうなことをすぐに教員同士で確認し合い、改善について検討し実践につなげた。
・研修受講者の意見から全員での職員研修が必要なことを知り、ＩＣＴを活用した授業研究会や研修会を実施した。

＜考察＞
〇全学校が研修内容について、受講者だけで終わらず、全職員へ工夫して情報共有を図っている。
〇研修内容をチーム等での話し合いを通して、自校の課題解決につながる具体策を出し、全校で実践する学校が増えつつある。
◇研修内容の共有化はもとより、「Ｍｙアイデアシート」等を活用して自校の課題解決につながる具体策を出し、マネジメントを通して学校力アップ、教職員力アップを図りたい。

（９）次年度に向けて

＜回答内容＞
・情報教育推進リーダーによる１人１台端末活用した授業改善とその準備
・ＧＩＧＡスクール構想について全職員が理解を深め、ＩＣＴ機器を活用した研究授業の実践
・スクリーニングやアセス等を活用し、児童生徒の実態のより早い段階での把握や不登校の未然防止に向けた取組の充実
・ＵＤＬの視点を取り入れた授業改善
・自治力のある集団づくりに向けた自己有用感の育成を意図した取組

＜考察＞
〇鳥取市ＧＩＧＡスクール構想を踏まえ、児童生徒１人１台の端末を活用した授業づくりに向けて、どのようにして全教職員で取り組んでいくかを各校で考えている。
〇児童生徒の実態を把握し、実態に合った学習展開やスタイルを各校で考え、実践していこうとする姿勢がうかがえる。
◇児童生徒理解や自己有用感の育成を見据えた研修を実施する。主体的・対話的で深い学びに実現に向けて、ＧＩＧＡスクール構想による効果的なＩＣＴ活用等、授業力を高める研修を実施する。